

活動目的

地場産業や伝統産業の異業種11社からなるSAGA COLLECTIVEは、佐賀の文化と伝統を紡いでいくため、地域の資源を生み出している生態系のバランスを維持しながら、持続可能な地場産業のあり方を構築していくことを目指しています。人・社会・地球にやさしい「エシカル」を心構えとし、環境保全活動や事業承継にも共同で取り組んでいます。

活動内容

(1) CO2排出量の把握と削減

2021年度より、11社共通の課題である脱炭素に取り組んでいます。具体的には、各社のエネルギー使用量を把握し、環境省の排出係数を用いてCO2排出量を算出（Scope1,2）しています。排出量の多くを占める電力由来のCO2（Scope2）の削減として、照明のLED化、電力モニタリングシステムの導入、再生可能エネルギーへの切り替えなどを実践し、ノウハウをグループ内で共有しています。他にも生産スケジュールの見直しによる加工機械の稼働時間の短縮といった運用改善、空調や冷凍・冷蔵設備の高効率化や社用車のEV化といった設備投資も行っています。結果、2023年度までで300t以上、約20%のCO2を削減しました。

(2) カーボンオフセットの実施

削減しきれないCO2排出量は、地元の自然環境保全プロジェクトを通じて、これまで700t以上のカーボンオフセットを実行しました。地元の自然に還元しなければ、私たちのものづくりの未来はないと考えているため、カーボンオフセットにおいては地元の自然由来のクレジットを選定しています。これまで佐賀県や福岡県の森林由来のJクレジット、佐賀県唐津市の藻場再生プロジェクトによるJブルークレジットを使用し、クレジットの地産地消を実現しています。

(3) 視察の受入れ

教育・金融機関や経済団体、インテリア業界や飲食店関係者など国内外からの視察を受け入れており、カーボンニュートラルが学べる講演と工場見学をセットにした集合型研修のプランを提供しています。また視察者の人数や移動距離、交通手段からCO2排出量を算出し、佐賀県唐津市串浦の藻場再生プロジェクトのJブルークレジットにてカーボンオフセットを実施し、カーボンニュートラルな視察を実現しています。

(4) グリーン市場の開拓

佐賀県庁と慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の産学官連携の社会実証業務に協力しており、例えば佐賀県みやき町の「みやきマルシェ」では2日間、約80店舗の出展者に自分たちでできるエシカルなことを考えてマルシェで実践してもらうなど、一般消費者に対してエシカルな商品の選択肢を提示することで消費行動の変化を促し、グリーン市場の拡大に貢献しています。

活動場所

佐賀県佐賀市、ほか



PRしたいポイント

世界的に加速する脱炭素の取り組みは中小企業が単独で取り組むには難しい課題ですが、共同事業として取り組む事でリソースを出し合い、切磋琢磨し、その実行力と精度を高めています。11社のうち6社はScope1,2の全量を、残りの5社も組合活動にかかる排出量をカーボンオフセットしており、当組合の活動（商品）がカーボンニュートラルである点を打ち出した販路開拓を実施しています。消費者がエシカルな商品と識別できるロゴシールを作成して商品に添付し、国内外の飲食店や小売店、企業などでのノベルティとしての受注実績を積み重ねています。

今後の展開

製造業に限らずいかなる業種も共同事業に参画できる賛助会員制度を2024年5月に新設し、同年6月より「旅館あけぼの（宿泊業、佐賀市）」が加盟しました。私たちの活動に賛同し、次の世代を見据えて地球規模の課題に取り組む仲間が着実に増えています。視察の受け入れ時に私たちのノウハウを共有したり、全国各地の講演やセミナーに登壇してJ-クレジットやJブルークレジットの活用方法や、カーボンニュートラル製品の事例として私たちの取り組みをお伝えすることなどを通じて、この取り組みの輪が他地域にも広がることを期待しています。